

国・自治体・議会・団体等の動き

○世界の動き

① 2017年国際アルツハイマー病会議で認知症の危険因子として発表されました

「認知症の約35%は予防可能な9つの原因(糖尿病、高血圧、社会的孤立、うつ等)により起こると考えられる。そのなかで難聴(9%)が最大の危険因子である。」と国際委員会が発表。

② 日本と欧米 公的補助に大きな差

(日本の遅れは際立っている)

③ 欧米では医療の問題として補助

欧米では医療の問題として補助が行われており、医療機器である補聴器を販売するには専門知識をもつ国家資格が必要で、医師と連携し、患者が補聴器を使いこなすまで支援します。

- ヨーロッパの多くの国では補聴器購入の公的補助があるため個人負担はないか、少なくなっています。日本では気にの公的補助の対象は障害者手帳のある重度難聴者に限られています。

難聴の人の補聴器所有率

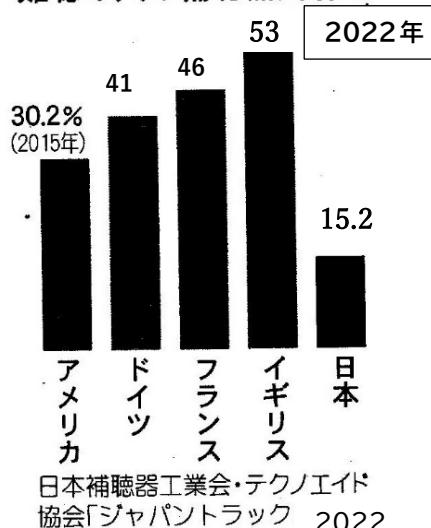


表2 補聴器技能者の国家・公的資格の有無及び医師との連携の義務の有無

	ドイツ	デンマーク	フランス	イタリア	イギリス	アメリカ	日本
開業のために資格が必要か	必要	必要	必要	必要	必要	必要	不要(*1)
医師の検査や処方箋の必要性	必要	必要	必要	必要	不要	現在は不要、ただし18歳以下は必要	不要(*2)
補聴器技能者の役割	支給、補聴器の調整 （フィットティと）	補聴器の選択 （フィットティと）	聽力検査、フィット （フィットティと）	支給、補聴器の選択 （フィットティと）	支給、補聴器の選択 （フィットティと）	難聴度の評価、フィット （フィットティと）	支給、補聴器の選択 （フィットティと）

(*1)日本では、補聴器の取り扱いには、管理医療機器の管理者の設置及び届け出が必要
(*2)障害者総合支援法における補聴器交付には耳鼻科医師の処方が必要

(Source: AUDIO INFOS 2010 April/May)
JapanTrak2018

表3 補聴器の全体的満足度に関する各国の比較

(2015、16、17年調べ)

国名	(%)
イギリス	70
ベルギー	80
オランダ	73
ポーランド	80
フランス	84
ドイツ	77
スイス	81
デンマーク	71
ノルウェー	72(2012年)
イタリア	79
日本	39

日本補聴器工業会提供資料